

# 戦時保育の本義と實際

—昭和十八年八月戦時保育講習會講義筆記—

倉 橋 惣 三

## 目 次

- 一 戦時保育の意義
- 二 戦時保育の重要性
- 三 戦時保育の問題
  - (一) 保育の目的方面に就て
  - (二) 保育の方法方面に就て
  - (三) 保育の内容方面に就て
- 四 戦争それ自身の取入れ
- 五 戦時下生活の取入れ

第一日—八月一日

## 一、戦時保育の意義

お互ひ今日は戦時生活の中に居ります。戦時生活はさういふ事でありませうか。唯戦争が行はれてゐる中で暮してゐるさういふ事ではない。又戦争が他處で行はれてゐる間

に生活してゐるさういふのでもありません。戦時生活さういふ意義は、互の生活の全部が戦争目的に合致してゐるさういふ事でありませう。戦争目的は全く同一の目的でお互も生活してゐるさういふ事が戦時生活の意義なのであります。生活は種々の意味を持つし、又個人々々の生活もあるわけであります。其の爲戦争の中にある事を承知しながら個人の間にある生活がその間に頭を擡げ來つたりします。従つて戦時生活はお互の生活目的がそれらしく戦争目的に合致してゐるかさうか、絶えず反省してゆく事であるさういへるのであります。

お互の従事する教育は、お互の貴重なる生活であります。従つて戦時生活の一として戦時教育もまた只今考へたと同様にその目的が悉く戦争目的に合致せねばなりません。又教育は種々の理由によつて行はれるのですが、今日我々のやつてゐるそれが戦争目的に合致してゐるや否やを絶えず反省しつゝやつてゆく、戦時教育の意義は實にこゝ

にあるのであります。これから述べるのはそれでありま  
す。たゞし戦時生活といひ、戦時教育といひ、今日始まつ  
たものではない。大東亞戦争以來既に歳を重ね、支那事變  
より見ればなほ以前から體驗して來たことであります。皆  
様が既に實踐し反省して居られる事であります。今日はじ  
めて戦時教育の意味、方向が判つたといふことはあるべき  
事ではありませんし、またさういふことでは教育者として  
恥辱でもありません。完全なる心掛けで従來もやり來り、現  
在もやつてゐるのであります。併し教育は實に實際であり  
その中に戦時保育の完全な姿を行つてゐるにしても——そ  
れは疑ないところではありますが——その中になほ反省せら  
れるべき事を考へるのも必要な事であります。この血みご  
ろの決戦下において四日間、靜かに與へられた時間は皆様  
が暫く子供を離れて、すべき事、してゐる事について考へ  
る時間であり、子供と共にゐる忙しい生活から、自分達の  
生活として戦時保育を考へる時間であります。その意味で  
こゝに更めて考へる事にしたいのであります。

戦時生活が日本の只今の生活であり、戦時教育が日本の  
只今の教育である事は教育の全面に事實ではつきり出てゐ  
ます。これについて先づ明瞭な認識を與へるのは、學徒が  
教室からそのまゝ海に空に征く事であります。軍務に關係  
ある青年が應召する事はもこより、本來ならば卒業期まで

十分に學校教育を受け、學校生活を送つてゐるべき學徒が  
學業を途中で放擲して志願して海に空に征くのである。こ  
れはその人々の愛國精神の高邁に感激する事はもこよりで  
あるが、その人が學校生活、教育生活を受けてゐる身とし  
て實に非常な事なのであります。國家は平生から裕りをこ  
つて學問させてゐないのである。故に平時に於ては學業を  
途中で放擲するといふ事は、それが個人的理由なら不都合  
な事であり、他の理由ならば最も遺憾とするのでありませ  
う。それを今日は國家、個人が一になつて放擲するのであ  
つて、之は實に容易ならざる事であります。學徒は研究を、  
指導者は指導を途中で棄てる。學校などはあつてもいゝこ  
いふ勢なのでありますから、常通りの學徒生活を中心にし  
て考へれば残念であり、困る事ともいへるであります。  
今日、男子はごしく、徵用せられ、女子もまた動員せられ  
てそれ／＼働いてゐます。恐らく學校教育の成績は何十倍  
の努力をしなければ普斷の通りにゆかないでせう。かく戦  
時教育は實に思ひ切つたことが行はれてゐるのであります。  
青年學校、中等學校の生徒には、ぐん／＼その教育を  
戦時目的に合はずべく、方法、内容共に改良されてゐるの  
であります。彼等は靜かな教室内に於いて授業を受ける代  
りに如何に行軍し、如何に教練してゐる事でありませう。  
これ皆、戦時目的に向つて中等教育の目的をふりむけてゐ

るのであり、國民學校もまた國民基礎教育をこの目的に向けてゐるのであります。先生の態度も、教育内容も、それを受ける生徒の眉宇にも、行動にも、戦争目的に向つて張つてゐる勢が現れてゐます。彼等は卒業するにすぐに志願して若鷲となる。教壇から先生はそれを説き奨め、その爲に必要として身體鍛錬も勉強もさせるのであります。今日、日本の教育すべてが従來の教育目的を戦争目的に合致させてゐる事はこの通りであります。

斯く考へて來た時、お互の生活、お互の保育は如何なる位置にあり、姿にあるかといふ事が問題であります。これは理窟の形でなく皆さんに直接すぐお話しかけたい。皆さんは幼児教育者として教育の一分野を持つのでありますが國民を教育する、國民者といふ事においては、大學教授、專門學校、中等學校、國民學校の先生方三何等變りはない。これは皆様はつきり御自覺の事でありませぬ。相手は青年に幼児で大變に違ふが、國民教育者としての違ひを生ぜしめるものではありません。即ち大學教授がもつ勉強させたい秀才を、今すぐ軍艦にゆけといふその氣持は皆さんにもあるわけであります。皆さんが大學教授の側にまはればその意氣は常にある。自分の教育對象としての相手をすぐ戦争におし出してゆかうといふ氣持は同じであります。この心持が相手が幼児である故にさうなるかが問題でありま

す。それを忖度してかういへると思ひます。ぢつとしてゐられない、じり／＼して來る。出來れば子供達を戦争にすぐ合致させたいといふ思ひは抑へられないのであります。

一體教育は平時の考へからすれば、教育そのものゝ本質といふわけから理想性、將來性を多分に持つものであります。政治、實業その他の生活と比べて教育は理想性、將來性を特色とするといへます。しかし戦争は私共をしてたゞ將來に生きさせません。戦争は理想を目的として始められたものであります。戦は目前にあり、敵は今なのであります。してみれば戦争の現實性、現在性は戰時生活の特色といへます。即ち、教育も戰時教育である限り、現實的、現在のなるものになつて來ねばならざるを得ないのであります。今日この實情に即してといふ現實性、すぐ役に立つ現在性を多分に持つのであります。大學の教育はその教育將來性を捨て、現實性、現在性についてゐる。幼児教育はさうまでそれに／＼問題なのであります。更に皆さんの現實的、現在の意氣を以て幼児の前に立つた時、それをさだけ幼児にもつてゆけるか、又問題であります。青年に對しては自分のもつ現實性、現在性そのまゝをぶつけてゆけばよいでありませうが、幼児教育に於ては現實性、現在性をそのまゝもつてゆけない。こゝに皆さんが幼児保育者として悶々耐へがたき心持を持たれるのを疑はない。大

學教育は青年を自分こしよに現實性、現在性に突入させるのであるが、幼児にはそれが出来ません。幼児教育では自分がみんなに現實的、現在の教育者になつてゐても、傍から見る時は極めて現實性、現在性の鈍いやうに見える事をしてゐる事になります。人にさう見えやうこそそれは構はないのでありますが、自分自身これが戰時保育かと思ふ心持が絶えず起るこゝと思ひます。

平時においてはそれによかつたのでありますし、又幼児保育者そのものがそんなに現實的現在のな心構へを持たなかつたかも知れません。が、今日はさうではないのにさうなつてゐる事は容易ならざる事でありませう。戰時保育はこれによいかこいふこゝをしっかりと考へたいと思ふのであります。中にはあまり自分自身幼児である爲にこの問題はおこらないこいふ方があるかもしれない、自身幼児であり、現實性、現在性を感じないのであるなら幼児さびつたり合ひお樂なこゝであります(笑)。併しその出来ぬお互は此方の現實性、現在性が幼児さ違ひ、しかも幼児さ暮さなければならぬのであります。戰時保育はする事が難しいこいふより、今申した事が問題なのであります。幼児を戰爭目的に向けて行く事は決つてをり又あまり向けられぬ事も決つてゐるのである、そして保育者自身は向いてゐる。こゝに生ずる矛盾が問題なのであります。その困難を皆に

吹聴して歩く必要はありませんが、戰時保育は戰時教育の特色を具へながら思ひ切り戰時教育になり難い。こゝに特色があるのであります。これをよく判らぬ人は幼稚園を頗る非戰時的さみる人がある。幼稚園を廢止すべし位に思ふ人もあるかもしれません。幼稚園のもつあの形を幼児に即する故に表はれる和やかさが、さうした感じを與へる事はもこよりであります。之に對し我々は一々説明をする必要はないが、もし我々にそれに對する充分の答の出来る用意がなければ戰時保育をやつてゐるこは言へません。こゝろで、その答は幼稚園をすぐ教練の場所とし幼児を若鷲にする所ではない。こゝまでも幼児は幼児、保育は保育である。

然もその中に自ら省みて十分答へ得る用意がなければならぬのであります。皆さんの中には血氣旺盛な若い方が多いから、幼児さ遊ぶ間に彈を造りたいと思はれるかも知れない。皆さんさ同年の若い人が一時間働けばそれだけ戦にすぐ役に立つ生産をみんなにしてゐる事でありませうか。保育をやめてそちらへ轉業する人が續々現はれさうに思ひます(笑)。それを敢へてなさらないのには譯があるこ思ふ。私が最も残念に思ふ言葉が昨年來ちら／＼あるのであります。女子が徵用を避ける爲に保育事業に従來するこいふ事でありませう。戰爭に直接に必要である仕事に女子が動員される。それを厭つて保育に來る。そこにこんな意味が

あるか大いに考へさせられるのであります。もしその人が  
ごんな御用より保育が自分に一番よく出来る御奉公だと思  
ふのなら遺憾はない。たゞその工場、その鑛山より幼稚園  
が現實的、現在的に吞氣、氣樂であるからそこにしばし憩  
ひの道を求めるまいふのであれば、幼稚園において本氣に  
勤めてゐる人は、かゝる人が仲間に来るまいふ事は堪へが  
たい事でありませう。皆さんはさうではない。もつみ現實  
的、現在的に生活なさりたいのだが、心あつて戦時保育に  
身を挺し、踏み止つてゐるのであります。戦時保育はみか  
けは極めて非現實的、非現在的でありますが、これが如何  
に戦時に即して必要であるか。そこがしつかり明確にされ  
てゐなければ戦時生活の現實性、現在性の前にしつかり立  
つ事がむづかしいのであります。そこで戦下何故にあのこ  
こやかな保育が必要か更めて考へてみる必要があるのでは  
あります。

## 一、戦時保育の重要性

戦争は國民を減少させてゐる事でありませう。只今この間  
にもそれが行はれてゐるのであります。従つて絶えずこれ  
を補はなければなりません。この補給については量的に考  
へられる事でありませう。所謂多子が生れねばならない。今

六

日一人の子供をいへぎも國民の補充として考へねばなら  
ないのであつて、人の量は戦争の勝負に最も根本的條件な  
のであります。しかし人口問題を量的に考へた時、自ら限度  
があります。故に一人をして何人分をも受持たせる事より  
他にないのであります。敵米英も人口問題を重要に考へ、  
一人一人がまた躍起になつて向つてゐます。これに對する  
對策としては一人が何人前であればよいのか、それこそ問  
題になります。一人が十人力、百人力を出すまいふのは昔  
はお話でしたが今日はさうでなければもてやれないので  
あります。その一人を何人前かにする事が保育の受持なの  
である。一人を何人かに働かせ得るやうにせねばなりませ  
ん。單にその子がより健康、より優秀にまいふ理想でなく  
現實問題であります。國民學校に於ける國民の基礎的鍊成  
が激しくなつてゐる今日、その下地もまたさうでなければ  
ならないのであります。人口問題を量と質、殊に質から考  
へて保育は實に必要である。しかも質より他ないのであ  
ります。

しかもその質的充實をはかる上に於て最も重要な幼児の  
家庭生活は平時の如く存分とはいへないのであります。そ  
の家庭生活は乏しさに耐へる生活であり、母は多忙であ  
る。その多忙は日本女性の元氣から出てゐるものでありませ  
う。それは日本の母の魂から絞り出したものでありませ

うが、普断なら子供の爲に使ふ力をそちらへ出してゐるこゝにいへるのであります。かゝる時、その子供の本當の在家アトカであり責任者たる家庭、母がかういふ状態ならば、社會施設としての保育がされただけ急務でありませうか。

殊に多忙だけでなく、我々の目前に父を亡つた子供が日に日に出來てゐるのであります。この現象に對し、誰がその子供達を責任をもつて世話をするか、これこそ極く大切な保育の任務です。

即ち、人口問題といふ大きな立場からその一條件たる母の多忙、又戦争が父を亡ならせてゐるその子の問題として戦争がある故に保育が今日尙更必要になつたといへるのであります。今迄保育といふ施設がなかつたとしても、この立場から新に戦時事業として起るべき性質のものであるといへます。今日新に起つた保育所に皆さんは新に徵用されてゐるを考へてよいのであります。戦の現實性、現在性はこゝまでぎり／＼の言ひ現はし方におきかへていゝのであります。皆さんは今日はじめて國家の必要にめざめて保育所に來たを考へてよいのであります。このこゝはこの戦下において幼稚園、保育所に來る子供の數が増加した事が證明してをります。これは事實において皆さんを必要とする新たな現實といへるのであります、今迄は保育の必要を我が説いて、さうかといふので子供を預けるといふのだつ

たかもしれませんが、今日の實情は反對なのであります。戦時保育所がこの意味で行はれてゐるのです。そこにはこゝによる皆さんの如き熱練せる保育者を迎へられず、熱意あつて技術の足らざる者のお手傳によつてやつてゐるこゝろもあるかと思ひますが、今日保母志願者の數は激増して居ります。かゝるこゝろから見ても、幼稚園の姿は必ずしも戦の姿を持ちませんでも、國の中にある在り方は戦と共にますます必要になり、發展し來つてゐるのであります。こゝによる戦時保育所を造る人、幼稚園へ子供を入れる人はたゞ必要の爲に、石炭を掘る如く、鐵を鑄る如く幼児保育の必要が感じられてゐるのであります。かゝる動きの中にお互の仕事が行はれてゐるのであります。お互はかねて幼児保育をして來たものであります。こゝに居られる皆さんの中には幼児保育の先覺者、熱練者が多く居るのであります。しかしもう一度戦時保育に立ち返るこゝに於てのみ今日の保育者であるといへるのであります。かゝる點から戦時保育の種々の問題を考へるこゝが出來るのであります。以上述べてきましたこゝを戦時保育の本義と致します。

### 三、戦時保育の問題

そこで、かういふ意義をもつ戦時保育は前述の如く、常に夫々やつてゐる事を又厳しく反省しなければならぬのであります。妙な言葉でありますが厳省といふ言葉を遣ひます。うかく保育が出来ない、しきたりのまゝでは出来ないものであります。始終本義に基いて厳省しなければなりません。それには、實際には夫々具體的に分けてする必要がありま。

## (一) 保育目的の厳省

先づ保育の目的方面について省みる事であります。たゞし何も今更保育の目的を厳省する必要はないといへませう。苟も目的を考へずしてやる事はない、況や教育においてありべき事ではありません。しかし敢へて目的方面に關して厳省を必要とする所以は、保育のもつ一の性質がこの必要を促すからであります。多くの事は、目的が主で、やる事はさう愉快でない事が多いのであります。今では鑛山に女子も入り、夜業も必要ならば許されてゐるのであります。石炭を掘る事が好きだといふ人はそんなになからう——假にさういはせていたゞく——炭坑の中、又は熱い溶鑛爐の側が好きだといふ人はないと思ひます(笑)しかし目的がはつきりしてゐる必要だからやつてゐるのであります。ところが保育といふ事はあの可愛らしい幼児を相手に、

幼児の爲に設けられた建物の中で、幼児に適する可愛い事をしてゐるのは誰だつて面白く、好きな事であるに敢へて申します。酒に酔ふ如く、保育に酔ふこゝが出来るやうであります。それどころか、保育に醒めてしまつたといふのではないけません。保育は必要な事だから止むを得ずしてゐるが幼児は大嫌ひであるといふのでは保育になりません。その楽しい事も、酔ふ事も保育の大切な點であります。こゝで問題になるのはだから目的が忘れられ易いといふ事でありま。詩人の如き、藝術家の如き、酔つてゐる先生——假りにボヤ／＼先生を名付けますが——は困るのであります。もつこも何の爲にしてゐるのかは平生一々考へません、けれども目的を厳しく反省して時に間違つてゐてはなりません。保育はこゝによるすべての教育よりも我々をボヤ／＼させがちなのであります。

幼稚園に限りませんが教育目的を考へるについて一つの行き方があります。教育的、分析的、論理的、即ちやつてゐる一つ一つを分析的に目的とする行き方でありま。この遊戯、この手技によつて如何なる目的が達せられるかを考へて選擇する事は大切であります。これだけに終つてしまひ全體的に目的を反省する事がなければ充分はいへないのであります。これがしば／＼起りやすいのであります。更にまた、何事にしてもそれ／＼何か値打がある事であり

まして、恐らくかねて幼稚園でして居られる事はそれ／＼立派な目的を多々具へてゐるに違ひないのであります。皆さんはそれ／＼私のしてゐる事を見てくれ、かういふ目的でかうして云々いいはれる事でありませう。これもが幼児を書ふやうなことはない筈で、これも立派であり、結構なのであります。問題は、ずらり目的を並べるのは平時であります。戦はねらつてうつつ事でありませう。彈丸一つねらはずには撃たぬのであります。

戦は一途な事でありませう。戦時保育において目的を嚴省する事は、いゝ事もまたやめねばならぬかもしれませう。所謂重點主義であります。いゝ事をやるこいふ言葉は理想主義であります。重點主義は必要に向ふこいふ現實主義であります。我々は悪い事はしてゐないが何處に向ふかを考へねばならない、戦時保育は之を落せば他にどんなに良い事をしても足りないこいふ觀方に向つてゐるのであります。然らば何を重點として保育目的を省みたらよいでありませうか。

### (い) 健康方面につきて

戦時保育こいつて今迄してゐる保育目的と違ふこいふ事をもつて來る事はないのであります。今迄の保育目的の中

にこを重點にするか、同じ事をしてこいふ解釋、心持するかが大切なのであります。幼児保育の目的は誰でも、何時でも健康を目的とします。戦時でなくても健康は大事であります。戦時保育なる故に健康を重んずるこいふのでは、普斷は重んじてゐないこいふこいふことになる。健康を重んずるこいふその事は、戦時保育の特色ではない——こいつても戦時保育における健康の重大性を減するものではないが——健康について如何なる特別な事が必要かこいふ問題になるのであります。假令は違つた風土に耐へる健康を養ふ事も一つの新しい事柄でありませう。健康そのものの普遍的な事として寒さ、暑さに鍛錬するだけでなくこの子がやがて征く地の寒さ暑さを考へるのであります。次に、幼稚園、保育所に於て健康を重んずる事は、その子供の健康を重んずる事でありませう、單にそれだけに止らず、國民人口問題としての役目であります。従つて強い子供を十分強くする事も大切ですが、弱い子供を丈夫にする事は日本の子供一人でも大切だこいふ現實にぎり／＼に來る事なのであります。昔は弱い子供は仕方がないとして省みなかつたかもしれないが、今日は一人をして何人にもあたらせる上にこれが大切なのであります。強い子を丈夫にするこいふは誰でも好んでする事であり、また素人でも出來る事でありませう。弱い子供を丈夫にするのは現實を憂へる人、玄人



のみが出来る事でありませぬ。この方法についてはいろいろの實際問題があり、これについては専門家からお話がある筈であります。特に幼稚園、保育所がその日の子供の検診をするさいふこを申し上げたい。

### (イ) 検診

幼稚園、保育所のはじめの任務は子供を丈夫にする事でありませぬが、この任務をするところは他處にもあるのです。こゝでは毎日子供達に接するところに特色があります。子供の變化を發見出来る事に特色があるのであります。朝すぐに子供の變りなきやを判断する、これは親心や優しい心から出来、從來もした事でありませぬがまだ十分ではないのであります。幼稚園が國民幼年期検診機關としての任務をもつところまでゆきたいものです。幼稚園は治療準備は整はないところが多いのであります。検診にはこれ程、立派な機關はないのであります。即ち、毎日子供を観る事、愛情を以て観る事の二つからさういへるのであります。そして子供に異状があれば適當な處置をさることは申すまでもないことです。幼稚園に入つて何ヶ月か異状を氣付かないでゐられるとすれば、その先生は遊ぶ事に忙しい氣付かぬ先生といはなければならぬ。

### (ロ) 體力

検診についても一つ重點をこゝにおきたいのは所謂、

健康を體力本位に考へてゆくゆき方であります。従来も身長、體重、胸圍等いろいろ測定して來たことですがこれから必要なのは體力であります。それにはあまり肥つてゐなくてもよい——飛行機が重くなる(笑)——あまり背が高くなくてもよい——潜水艦に乗れない(笑)——體力が必要なのであります。幼稚園における體力の伸張は、方法的には慎重な方法が在るのであります。體力鍛練の名に於て方法を誤るに却つて害がおこるのである。これは青年にはそれ程おこらないのであります。しかし目的練成にはもつて體力さいふ事が入つてよいのであります。その試みとして私達兒童母性研究會に於て幼稚園、保育所における體力検査を如何にして正しくしようかを研究し、體力増進法を研究中なのであります。幾つかの幼稚園に協力を願つてゐるのであります。幼稚園に入園當時の體力と一年後の體力と如何に違つて來るのか、また幼稚園に來た子供と來ない子供とでは體力の變化がさう違ふかを見るのであります。それについて検査種目を六あげて試みてゐます。これは定説ではありませんが、參考までに申上げるに、一、疾走、二、立幅跳、三、投擲、四、荷重疾走、五、懸垂、六、片足連續跳、この六を先づしてゐるのであります。これはある考へ方では勿論その子の本來によるのであります。しかし所謂之は概評としてつけられるのとは違ひ、鍛練に

よるものであるから、保育の結果に支配されるところ大であります。この検査は特定な保育をなして、體力増進が出来たかといふのを見るのではなく、この六種目に向つて鍊成させるのでもありません。懸垂を一日させておくといふ編蝠幼稚園(笑)ではない。具體的生活行動の中で體力が増してゐるこゝいふ意味だけであります。疾走にしても、毎日何時間駆けるこゝいふ事を奨励するのではないが、普斷の生活活動の中に遊びを體力的遊びにしてゆくこゝいふ事、目的標準をこゝに考へてよいと思ふ。例へば鬼ごっこにしても、足の早い子供は二十五米の距離を五秒、遅い子供は約八秒ありますが、このおそい子供を七秒、六秒引き上げると先生は逃げる方になるわけがあります。荷重疾走にしても同様、大きな積木を片附ける手傳なごにおいて、その子供に即して心ある研究が必要なのであります。十疋のものを十米運ぶに四秒かゝるのが普通なすれば、子供の體力をしらべてその標準に到達することを目的としてゆくのであります。特別の怪力兒を養つて本國の體力かくの如しこ自慢をする必要はない。その實十人中、優秀者は二人、他の八人は病弱なごゝいふのでは困るのであります。(笑)體力は二つに分類して考へられるのであります。例へばかけっこにしても、さの位早くこゝいふ事がその一つ、又、さの位長くつゞくかこゝいふ事がその二つであります。力には耐

へる力と一氣呵成にする力とある。投擲についていへば、二五〇瓦の重さのものを八米投げるこゝいふ事でも、その距離を長くする事だけでなく、何回つゞけて投げられるか、しかもつゞけながらその距離をだん／＼に増してゆけるかこゝいふ事が國民に要求されてゐるのであります。大東亞戰爭が要求するのは日本人の持ちこたへる力であります。幼兒に今すぐに行軍させるのはありませんが、狙ふところはつきりさせるのはこゝにある。いひかへれば強靱なる體力であります。もろくない、一つの仕事に燃えたつてしまふのでなく、ねつちり續く體力です。

#### (ろ) 性格方面につき

次に健康と體力とははせて性格を重んじなければなりません。これは平時においても同様であります。たゞ性格こゝいふ言葉ぐらゐる多面的な事はないのでありまして、恐らくこれもこれも揃はねば完全な性格とはいへないであります。體力においても同様でありますが、それ以上、性格の完全さの要求は多いのであります。しかし多少重點的に考へたいのであります。その重點が戦時に於ては國民的性格なる事は申すまでもありません。何があらうとも先づ國民的性格がなければ駄目であります。性格上駄目な人間であ

まして今日缺くべからざるものなのであります。

(十三頁より)

歩行訓練を日と距離を定めて試みて居る所  
乾布摩擦を實行してゐる所  
榮養劑を與へてゐる所

海岸行き又は山登りを行つてゐる所

體操を毎日してゐる所  
偏食矯正の意味で給食をしてゐる所

日光浴、戸外保育をしてゐる所、等々又

精神的 には大稜威に、皇軍に盡きない感謝の心を持つやうに。  
我慢強くあるやうに。と云ふことをどちらでも考へて居られる。

皇軍が赫々たる戦果を擧げる理由の第一には、いつも皇軍は陛下の御爲に力の限りを盡すことを至上の行と考へてゐること、第二には、皇軍は困苦缺乏に堪へ忍んで頑張るからであるといふことを云はれるが、これを聞く度に、今私共が預つてゐるこのお子達を、今の將兵にも負けないやうな忠勇なそして頑張りのきく人に育て上げなければならぬとは、誰しも心の内に期することなのであらう。この他、現在の物資の貴重の中に生きてゐる者として、物の大切なことを痛感させ、物を大切にするやうにといふことを考へて居られる。

以上が、皆さんから頂いた回答の取り纏めである。

(編輯係り)

るさいはれ、またその爲に世間的には貴敬されてゐない人が今日、國民的性格に立派なものを表はして働いてゐるのをきく時は實に愉快であります。反對に、立派な紳士を敬はれてゐた人が、今日國民的性格において缺けてゐるのを見出すときは悲しいことでもあります。戦時保育は性格の國民的さいふ事に重點をおきますが、國民的性格には二つをあげられる。一は内容的な意味において、日本を愛する、日本人的な精神、ものゝ考へ方感情であります。これは疑なく國民が實行してゐることであるが國民的はこれのみではありません。國民的は單數でなく、複數の言葉であります。一人一人がみんなに日本人的であつてもさうまで一人としてしか動かなければ國民的といふ言葉にあてはまらない。國民的は一億をいふのであります。國民的に行動するは國民が一しよになつて行動する事であり、一人一人が戦つてゐるのでなく、全體が一つになつて戦つてゐるのであります。その爲に人を一諸になれる性格をつくつておかねばならない。好きな人だけでは嫌な人も一しよになれる性格であります。個人主義は今日非國民的であるといへます。人一しよになれる性格を養ひたいのであります。幼稚園においてはかゝる意味は別に、社會性の訓練といふ意味で人一しよになれる性格を重んじて來たのであります。その程度でなく國民的に生きるの必須條件